令和５年度　八雲町立落部中学校

学 校 経 営 方 針

Ⅰ　落部中学校の概要

１　学級数・生徒数

在籍状況		通常学級				特別支援学級				合計	備考
	学年	１年	２年	３年	小計	情緒	知的	肢体	小計		
	学級数	１	１	１	３	１	１	１	３	６	
	在籍数 男	７	６	１０	２３	１	１	１	３	２６	
	在籍数 女	７	２	８	１７	０	０	０	０	１７	
	在籍数 計	１４	８	１８	４０	１	１	１	３	４３	

２　地域・児童生徒の実態

〈地域の状況〉

内浦湾を東に望み、落部川の河口平地を中心に、南は栄浜地区、西は上の湯・下の湯地区、北は旭丘地区を校区としている。在籍生徒は４３名で、今後数年さらに減少傾向となる。

地域の産業は、ホタテ養殖を中心とした沿岸漁業や水産加工業の他、農業（稲作・野菜栽培等）、畜産業、土木建築業、商業等で構成されている。沿岸漁業で発展した地域柄、生徒の保護者の就業状況は、半数程度が漁業関連である。漁場としては安定しており、比較的に経済的ゆとりがある家庭が多い。ＰＴＡ関連や参観日等への参加者は少ないが、多くの保護者は学校に協力的である。複雑な事情を抱え、サポートを必要とする家庭も散見される。

〈落部小学校児童の実態〉

純真・明朗・活発であり、自然への関心や親しみをもち、動植物を愛する心をもつ子どもが多い。清掃活動などの労作活動には一生懸命に取り組むことができる。朝から元気な挨拶ができる子が多い反面、近年「早寝・早起き」が苦手な子どもが出始め「望ましい生活習慣の確立」が課題となっている。集団生活の中では、活発で負けず嫌いな気性の反面、協力性にやや乏しく、根気強さや感情の自己統制力に欠ける面も見られる。時間を守る規範意識が低い子どもや場に応じた正しい言葉遣いが身に付いていない子どももいて、学校生活の様々な場面を通しての生活指導が必要である。

学習活動に意欲的に向かう子どももいるが、反面、集中力や探求心にやや欠ける面が見られる。基礎的・基本的な学力の定着にやや欠けるため、学校では授業改善や個に応じたきめ細かな学習活動を推進していく必要がある。家庭での学習習慣が定着しつつあるので、「家庭学習の手引き」や「アウトメディアデー」等の具体的目標を子どもたち自身に立てさせ、目的意識をもたせることで課題の解決にあたる必要がある。

体を動かす遊びや運動に興味を示す子どもが多く、これまでのスポーツ活動への取組の成果が見られ、全校児童の体力・運動能力の向上が見られる。保健衛生に関しては、養護教諭と栄養教諭による食育指導の成果が見られ、子どもたちの「食」に関する興味・関心が高まりつつある。食後の歯磨きなどは、家庭とも連携してより良い生活習慣作りに取り組む必要がある。

〈本校生徒の実態〉

生徒は概ね純朴素直で、活動的である。また、幼少期から同じ集団の中で生活しており、人間関係も固定化される傾向にある。家業の労働力となっている生徒が多く、勤労の姿勢が身に付いている反面、欠席や生活リズムの乱れなど、学校生活に影響が及んでしまうこともある。

また、スマホ・携帯の所持率が高く、ＳＮＳを巡る情報モラルの問題が散見されるほか、言葉遣いや語彙力に一貫した課題が見られる。

令和４年度全国学力・学習状況調査結果では、国語・数学ともに全国平均を上回ったが、生徒数が少ないため個々の生徒の能力に結果が左右されることから、学校としての傾向とは言い難い。今後は、家庭学習習慣の定着を目指して、家庭での１人１台端末の活用などの工夫を行っていく。

近年の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点平均値は、男女とも全道・全国平均を下回っている傾向が続いている。運動部加入生徒の減少や活動状況の変化等の影響が考えられる。

Ⅱ　教育目標

１　本校の教育目標

○自ら学び　豊かな力を発揮する子どもの育成
○己を律し　自他を思いやる子どもの育成
○自ら鍛え　心身ともに健康な子どもの育成

めざす１５歳の姿（めざす子ども像）
『豊かな人間性と広い視野をもち、ふるさとに愛情と誇りをもつ人』

２　めざす学校・教師像

◇ 学校像
・生徒に「未来をたくましく生き抜く力」を身につけさせる学校
・安心感と充実感により、生徒・保護者から信頼される学校
・学びを地域の資源とつなげ、地域と協力し続ける学校

◇ 教師像
・生徒の確かな学びを支えるため、自らの資質向上を目指す教師
・強い教育的愛情と倫理観とをもち、心理的安全性を支える教師
・学校づくりを担う一員として、地域等とも連携・協働できる教員

３　重点教育目標

【中学校】『「明日を生きる」　共に学び、高め合う生徒の育成』

令和５年度の本校の重点は、現状に甘んずることなく常に「明日（将来）」を見通しながら行動できる生徒の育成と、自他を思いやり、互いに学び合い、支え合い、高め合う生徒の育成である。
また、令和４年度学校評価から、小中の連携、地域との連携の不足が指摘されていることから、さらに地域、保護者のニーズを的確に把握した上で、地域と協働し、課題解決を目指していく。

【小学校】『よさを活かし、学び合い、高め合う子～学びをつなぐ教育活動の推進～』

（１）「よさを活かし」とは、「共感的な人間関係の構築」を基盤に豊かで安心安全な学校生活を送ろうとすることである。
（２）「学び合い」とは、「学びに向かう姿勢（意欲）」を原動力に、「学びの多様性」「学びの個性化」を図り、「自ら考え、解決する力」を身に付けることである。
（３）「高め合う」とは、「学校生活をよりよくする工夫」をし、共に「社会を生き抜く力」を身に付けることである。

Ⅳ　学校経営方針と具現化方策

１　子どもたちが安心して学べる風土を醸成する生徒指導の展開

生徒一人一人のかけがえのない存在を何よりも大切にする。学級経営を軸に生徒の自己指導能力を磨き、自他を尊重する心や態度を養う。落部中学校教職員集団の総力を結集して、生徒の安全・安心を保証する。

（１）安全・安心な教育環境の整備・充実
① 生徒指導部を中心とした組織的な開発的生徒指導を充実させる。
② 「教室に居場所がある」、「この空間は安心できる」と思える学級経営を推進する。
③ 「いじめ・不登校」は、特別委員会を中心に全校体制で対応し、生徒、保護者に対する包括的支援を行う。
④ 清潔な学習環境の保全と安心安全で整理整頓された校内環境を整備する。

（２）規範意識の向上による安定した学習環境の保障
① 生徒指導部の方針を基に「あいさつ、時間、身なり」を重視した生活習慣を確立する。
② 集団生活の向上については生徒会活動と連携し、生徒の主体的活動を促す。
③ 情報モラルは保護者・地域にも協力を求め、年間を通して指導する。
④ より良い社会の担い手となる生徒に、ルール遵守の必要性について徹底して教える。
（３）危機管理体制の強化により、子どもと教職員を守る体制整備
① 安全・安心に通学できる通学路の点検と校内外環境を整備する。
② 「落部中学校いじめ防止基本方針」を見直し徹底する。
③ 「落部中学校危機管理マニュアル」を見直し徹底する。
④ 「落部中学校危機管理マニュアル」に基づき、実効性ある避難訓練を実施する。

２ 学習指導要領の視点に則った上質な授業の提供

授業が、学校生活の基盤である。教師が授業で育成すべき「資質・能力」を的確に捉えることが肝要である。学習指導要領の趣旨を確実に実現する授業を実践する教師であり続ける。「この授業が楽しみ」、「学び合えてよくわかる」、「将来の役に立ちそう」と子どもたちが課題に真剣に取り組む授業を提供する。

（１）教育課程の編成
① 学習指導要領を踏まえ、各教科指導計画の編成及び検証改善サイクルを充実させる。
② 学校や地域の特色に配慮して、特別活動の計画を編成する。
・創意工夫ある自治的生徒会活動の推進→地域貢献、学校生活向上への取組推進
③ 道徳教育推進教師を中心として『特別の教科 道徳』の指導を充実させる。
④ 全国学力・学習状況調査での各教科の平均正答率は引き続き全国平均を上回ることを目指すとともに、チャレンジテストを各教科年間指導計画に位置付けて有効活用する。
⑤ キャリア教育全体計画を生かし、より良い生き方を追究するキャリア教育を充実させる。
（２）授業改善の推進
① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスのとれた授業実践を推進する。
② １人１台端末を用いた効果的な授業を構築し、家庭学習習慣の改善につなげる。
③ 授業のユニバーサルデザイン化等により、授業の質を向上させる。
④ 令和５年度八雲町共通課題「読解力の向上」へ向けた取組を充実させる。
（３）個に応じた指導の充実
① 特別支援コーディネーターと校内外の各組織の連携を図り、より個々の子どもに向き合う。
② 特別支援委員会を定期的に開催し、全職員の共通理解を推進する。
③ 通常学級在籍の「特別な支援を必要とする生徒」の授業支援について、特別委員会での議論を経て、校内研修で取り上げて効果的に展開する。
④ 専門知識や技能及び特別支援免許習得を推奨する。
⑤ 習熟度別学習、放課後学習、長期休業中の学習サポート等、個に応じた指導を充実させる。

３ 学校・家庭・地域が一体となった学校教育の展開

現在の教育は、学校だけでは完結しない。「社会に開かれた教育課程」の理念の下、地域総ぐるみで生徒を育む。

（１）家庭・地域とともにある学校経営の推進
① 令和５年度発足の小中合同ＰＴＡを活用し、９年間を見通した保護者連携を実現する。
② 積極的な情報発信及び「見える化」を推進する。（グランドデザインの公開・ＨＰの活用）
③ 落部中学校区学校運営協議会（ＣＳ）を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。
（２）家庭・地域と連携した教育活動の積極的な推進
① 課題解決を中心とし、計画的で系統化された『総合的な学習の時間』を実施する。
・ふるさと学習をテーマにした小中９年間のカリキュラムを整備する。
・キャリア教育の計画的体系的な推進→地域素材の教材化及び地域人材を活用する。
② 家庭や地域の声に対する傾聴と、地域関係団体との積極的な協力を推進する。
③ 部活動指導では、誰からも応援される部活動を目指し、マナーを徹底し、感謝の心を育む。

４　教育的使命感に立脚した教職員集団の構築

中学校の良さは、一人の生徒がたくさんの教職員の指導を受けながら成長できることである。だからこそ、教職員は、職員同士、保護者、関係機関と意図的につながり生徒と向き合う必要がある。つながり合い、支え合う、強固な教職員集団をつくる。

（１）教職員の資質・能力を高める研修の推進と職場環境の整備・充実

①　「一教師一公開授業」を中心とした単年度完結型校内研修を充実させる。

②　校外研修への積極的参加「一教師一校外研修」をできる職員集団の意識を高める。

③　教職員の職能向上を図る研修を実施する。（研修報告会、講話等）

④　ＩＣＴ機器活用等、タイムリーな内容をとらえての校内研修を実施する。

⑤　爽やかなあいさつを交わし合い、教え合い、学び合い、支え合う職員集団を心がける。

（２）小中一貫体制の再構成

①　小中一貫教育運営組織を抜本的に見直す。（運営推進委員会の新設）

②　小中合同研修を推進する。（互見授業、合同研究協議等）

５　不断の見直しによる教育活動全般の改善

刻々と変化する社会情勢の中、学校は不断に現状を確認・分析し、教育活動の見直しを行わなければならない。また、子どもたちに質の高い教育を提供するための環境整備も非常に重要である。

（１）　経営方策と評価・改善

①　学校経営方針の理解と共有化によるカリキュラム・マネジメントを充実させる。

②　必要に応じて迅速な対処と改善方策を進める。

③　短いスパンによる計画的な学校評価を基にした組織マネジメントを推進する。

④　地域との連携・協働を目指し、コミュニティ・スクールを充実させる。

（２）服務規律の厳正な保持

①　教職員個々が高いコンプライアンス意識を保持できるように、服務研修と情報提供を行う。

②　内部規定に見直しと徹底により、校内でのチェック体制を徹底する。

（３）北海道アクション・プランを踏まえた働き方改革の推進

①　部活動休養日、定時退勤、時間外勤務縮減、会議の縮減・整理等の業務改善の意義を理解し、職場として統一して取り組む。

②　業務の見直しと効率化の推進

③　「八雲町立学校における部活動の方針」に則った部活動経営を推進する。

⑤　「１年単位の変形労働時間制」に関する職員研修の実施と情報提供を進める。

⑤　日常的な働き方に関する意識改革に向けた実践を進める。

（６）適切な庶務・会計、学校事務の推進

①　学校予算の編成と適正でかつ明朗な執行

②　各種事務経理の正確で迅速な処理と諸帳簿の適正な保管

③　内部点検による事故防止の徹底